

2021年3月期 第2四半期連結決算電話会議 質疑応答

【質問者1】

Q：今回11月公表業績予想の金属価格与件と足元の市況の乖離についての考え方を教えてほしい。
例えば銅の今回下期予想の価格与件は\$6,300/tだが、足元は\$7,000/tに近いところにある。影響は銅鉱山が多いと思うが、12月決算会社なので残りの期間としては12月までということか。

A：海外銅鉱山への銅価格の影響は12月決算であるため、3ヶ月ずれた形で取り込むことになる。金属価格与件については、今後調整局面を迎える可能性も想定できることから足元の価格よりも低く設定している。足元の金属価格水準はコロナ前より高くなっており、やや過熱感を帯びているという感触を持っている。ワールドワイドの需給を見ても銅、ニッケルともに来年はやや供給過剰という見方にも足元ではなっていることから、このような価格設定としている。

Q：コロナ影響で様々なものがあり難しいが、例えばQB2の中断コストのような今年あって来年ないものについて、整理したものがあれば教えてもらいたい。

A：QB2の中断コストは、建設中断の再動員にかかる費用等はプロジェクトの付加価値を生まないということから期間費用として計上しているが、足元ランプアップは計画どおり進んでいるため、現時点では、今期の一過性の要因となる見込みであり、その他ではこの規模の一過性要因はないものと考えている。

Q：カンデラリアの減産要因と、ストライキで20日ほど止まっていると思うが現時点での状況について教えてほしい。

A：鉱石の硬さ等に起因する処理量の減少、品位の低下等により減産となっていたが、ストライキ前には処理量は回復していた。ストライキについては10月20日頃から現在も続いているという状況であるが、この影響については現時点では操業面・損益面ともに不透明であることから今回の11月公表業績予想には織り込んでいない。

【質問者2】

Q：モレンシーのコスト単価差が上方修正となる背景とその持続性について教えてほしい。

A：リーチング操業が好調で増産になっていることに加え、操業改善・コスト削減活動等を進めている結果がコスト単価差の好転に繋がっている。それらの効果を今後も可能な限り得ていきたいとは考えているが、次年度計画についてはまだ出していないため、現時点では何とも言えない。

Q：今回11月公表業績予想の電気ニッケル減産・減販の理由について教えてほしい。

A：減産については原料組成の変動を主因とした原料処理量の減少、減販についてはコロナ影響で国内を中心に販売が減少していることが主な理由である。

【質問者 3】

Q： 材料の利益の動き方について、税前損益で1Q赤字から2Q黒字となった背景と、下期予想は自動車関係、スマホ関係などで市況が戻るとの説明があったが利益があまり伸びていないように見える背景は何か。

A： 上下比較では、販売数量が前回8月公表業績予想比で2Qがやや増加した製品群があったことが一つの要因ではある。

Q： フィリピンでNACのニッケル鉱山がコロナで止まるといった報道があるが、当社の操業に影響はないと見て良いか。

A： 現時点では、当社の操業に特に影響は出ていない。

Q： 製錬セグメントの売上総利益が上期から下期にかけて減るのはなぜか。税前利益は横ばいとなっているようだが入り繰りも教えてもらいたい。

A： 上下比較での減益要因としては、在庫評価の金の売買QP差の影響などが挙げられる。

以上